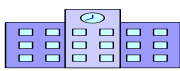


学校だより第11号 平成30年2月1日(木)

学校教育目標：自ら学び、心豊かでたくましい児童の育成



きざき



さいたま市立木崎小学校

児童数 854名

— 児童が目を開けて、
明日の授業を楽しみにする学校 —

TEL048-831-2281

URL <http://kizaki-e.saitama-city.ed.jp/>

E-Mail kizaki-e@saitama-city.ed.jp



努力の天才

校長 豊島 登

厳しい寒さが続いています。もうすぐ節分、立春を迎えますが、まだまだ春の足音は先のように感じます。1月22日から23日にかけての降雪は、4年ぶりの大雪となりました。子どもたちが安全に登校できるようにと、多くの地域・保護者の方々が雪かきをしてくださいました。改めて感謝申し上げます。なかなかとけずに氷のようになっている校庭の雪を、子どもたちにも手伝ってもらい、どける作業を進めています。ぬかるんだ土が夜間に再び凍ってしまうという悪循環に陥っていますが、校庭で元気に遊ぶ子どもたちの姿を思い描きながら、作業に精を出しているこの頃です。

先日、あるスポーツ番組で、横浜Fマリノスの中澤佑二選手がゲスト出演していました。中澤選手は、Jリーグで“4年連続全試合フル出場”という記録を達成した“鉄人”です。これはよく考えてみると、途轍もないことだということがわかります。

まず、試合に出るためにはレギュラーの座をつかまなければなりません。途中交代もないということは、監督から絶大な信頼を得る必要があるでしょう。また、イエローカードが累積したり、悪質なファールをしたりすれば出場停止処分となってしまいます。中澤選手のポジションはセンターバックです。クリーンなプレーで、しかも相手の攻撃を防いでいるのです。さらに、激しい練習や試合で怪我をしてもいけません。風邪をひいてもいけません。コンディションを維持するために、グラウンド外でも徹底的な自己管理をしている様子は、私たちからするとたいへんな努力をしているのだと感じてしまいます。ところが、中澤選手はこう言います。

「自分の中では努力をしているという感覚はありません。たいへんだと思ったこともありません。そうしなければ勝てないから、精一杯できることをやっているだけです」

努力を努力と思わずに、日常生活の一部のようにしてしまう中澤選手は、まさに“努力の天才”なのだと思います。

こんな努力の天才が行っている2つのことを紹介します。1つめは、「ウォーミングアップのランニングでは、必ず一番外側を走ること」です。さぼりたい人は内側を走りたくなりますね。1日にすればほんの数メートルの差ですが、継続するほど大きな差になります。このような“損して得をとる”行いは、私たちのふだんの学習や生活に通じるものがありそうです。2つめは、「練習後に、大きくて長い“うがい”をすること」です。「ブクブク・ガラガラ・ペツ」を何回も繰り返していました。トップで活躍するアスリートでも、こうした基本を大切にしているのです。大いに学びたいところです。